

特別展示 京都 縄文ものがたり ー上里遺跡からのメッセージー

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

展示に寄せて 近年、近畿地方の各所で縄文時代の遺跡がみつかり話題に上りました。とくに縄文時代晩期のかかなり規模の大きな集落跡が明瞭な形で発見されることがあり、京都市内においても住居施設と墓域をともなう比較的規模の大きな集落が発見されました。

今回、京都の源流ともいえる縄文時代にスポットをあて、特別展示「京都 縄文ものがたり ー上里遺跡からのメッセージー」を開催することにいたしました。

ここでは、京都市内で出土した縄文時代早期から晩期までのものを扱いましたが、その多くは西京区の上里遺跡出土の晩期のものです。パネル類は、発掘調査や遺物出土状況などのほか、縄文時代晩期の上里遺跡の様子がわかるようなイラストで構成いたしました。

展示遺物では、中京区の二条城北遺跡や伏見区の日野谷寺町遺跡などから出土した土器や土偶などのほか、上里遺跡出土の翡翠製の玉や輪状土製品、勾玉などの装飾品から炭化したマメ類やドングリそれに炭化米も展示しました。マメ類は出土量の多さと粒の不揃いから、栽培されたものである可能性が高く、米は現在のところ近畿地方で出土した最も古い米の一つであり、貴重な資料といえます。

これらの展示品を通覧すると、



エントランス展示 縄文時代をイメージしたイラストパネルの前には、上里遺跡出土の勾玉・丸玉・耳栓・半輪状の土製品を展示しています。勾玉は滑石製で、2方向からの穴が開けられています。また、半輪状の土製品の両端にも穴が開けてあり、紐のようなもので繋いで輪にし、腕輪や脚輪のような装飾品として使用したのではないかと考えています。



メインケース展示 上里遺跡東部の竪穴住居群と流路状遺構や溝から出土した縄文時代晩期の遺物を展示しています。浅鉢・深鉢の破片や注口土器、4箇所に穴を開けた蓋とみられる土器があります。ほかにも、東日本系や生駒西麓産と見られる土器片が見つっています。

京都市内にも縄文時代の営みがあったことがみえ、とくに縄文時代晩期の様子が鮮明に再現されています。

京都市内では縄文時代の遺跡調

査例が少なく、なかなか話題に上

ることが少なかったのですが、乙訓地域を代表するような上里遺跡の発見は従来の縄文像を覆すものであり、我々に土の中から新たなメッセージを投げかけています。

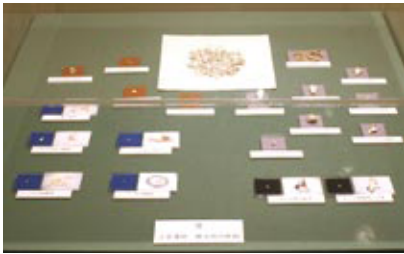
(辻 純一)



土器館 このコーナーには上里遺跡東部集落の土器棺墓に用いられた深鉢を中心に集めました。縄文時代の深鉢は、底部が欠けていることが特徴的です。出土状況の写真を並べて展示しています。



骨片 上里遺跡東部集落の流路状遺構・土坑・集石遺構から、イノシシ・ニホンジカなどの大型ほ乳類をはじめ、両生類、鳥類、魚類などの骨の欠片が見つかりました。



炭化した種実 同述の流路状遺構からは、クリ・ドングリ・クルミ・マメ・コメなどが炭化した状態で見つかりました。



その他の遺跡 このコーナーでは京都市域の縄文時代の遺跡を紹介しています。二条城北遺跡・安朱遺跡・日野谷寺町遺跡・上終町遺跡の遺構写真と、聖護院西町遺跡・中堂寺南町遺跡を含めた遺物から選りすぐりを展示しました。なかでも日野谷寺町遺跡からは、分銅型土偶と呼ばれる土偶が縄文時代後期の深鉢などと共に出土しました。市内の縄文時代の遺物を集約した、これまでにない展示となりました。



パネル展示 遺構写真の他に、さまざまなパネルによって調査成果をわかりやすく展示しようと試みました。集落をイメージした復元イラストは、現在の地形写真の上に遺構を復元して重ねて描きました。また、竪穴住居の復元の様子や、出土遺物の交易地図、炭化物の抽出作業のプロセスをパネル展示しています。